



冬の企画

冬を感じてスキー体験



指導科 篠田 俊一

平成31年2月19日(火)、PT室において指導科行事「冬の企画」を開催しました。今回の内容は「スキー場を体験しよう！素敵なスキー場のロッジを体験」というテーマで、季節感を味わいながら、楽しめる企画にしました。会場には、ゲレンデの装飾を施した画面に、プロジェクターで2台のWiiゲーム機の画面を投影し、スキージャンプとスラロームを楽しめるコーナーと素敵なロッジでくつろげるコーナーを準備して、多くの方が楽しく参加できるように工夫しました。

まず、入口を入るとスキー場のロッジをイメージした空間が広がり、続いて美味しい香りがするバーカウンターと占いコーナー、カラオケ、ダーツゲームなど複数のコーナーを準備しました。リゾートホテルのような暖炉もありくつろげるような空間で、暖炉からは温風が出て、カウンターからはホットワインの香りをさせました。皆さんは、ゲームやワインの香り、カラオケ等を存分に楽しんでいました。

ゲーム機の画面を写し出した奥のスクリーンではスキージャンプとスラロームを楽しみました。スラロームでは、車椅子のままボードに乗り、身体を傾けると右へ左へとスキーが走る仕組みで、うまくポールを通りゴールを目指しました。指導科職員が両側について車椅子を少し傾けると、スピードを上げてスイスイとスキーが滑り出しました。大きな画面でまるで自分で滑っているように感じられたかと思います。スキージャンプも同様に前後に体重を移動すると滑り出します。飛び出す直前に前に体重を掛けると飛び出していきます。なんと100メートルを超えるジャンプもあり、利用者の皆さんも一生懸命取り組み、多くの応援の声に会場は大いに盛り上がりました。

今回の行事の開催は、なかなかスキー場などに出かけられない皆さんが疑似体験できるように指導科職員が工夫を凝らして準備しました。また、ボランティアの方にもご協力を頂き、利用者、ご家族の方、職員等多くの方の参加があり、楽しい一時を過ごすことが出来ました。



新春の集い

4-1病棟 渡部 亜希子

4-1病棟では2月6日(水)に、お楽しみ会でポッチャ風的当てを行いました。事前の活動で、ビニール袋に好きな色の絵の具と水を入れボールを作り、ワクワクドキドキしながら行事の日を迎えました。ボールを転がすレーンをくじで選び、カラーボールと自分で作ったボールとを転がし対戦をしました。自分で作ったボールを思った所に転がすこともできれば、転がしすぎることもあり、みんな笑顔で参加することが出来ました。対戦中は、相手のボールに自分のボールを当て、高得点になったり、的から出されたりと賑やかにお楽しみ会を行うことが出来ました。ご家族や他病棟の利用者も参加され、笑顔溢れるお楽しみ会を行うことが出来ました。



1階合同お楽しみ会

1-A病棟 保育士

1階病棟では、2月13日(水)に合同お楽しみ会を開催しました。バレンタインデーを翌日に控え、今回は『愛をつかまえろ!』というテーマです。1-B病棟の女性利用者と1-A病棟の男性利用者がそれぞれ一人ずつ対面し、4個のカラフルな箱のうちからそれぞれ一つずつ選び同時に箱を開けます。ハートの風船が入っているとラッキー!二人とも風船をゲット出来れば、明日のバレンタインデーの楽しみは倍増!!というゲームです。どの利用者も少し緊張した様子で箱を開け、風船が入っていると満面の笑顔。残念ながら入っていないくても、雰囲気盛り上がる楽しいゲームでした。

ロマンチックなゲームですが、今回は1-A病棟と1-B病棟の対抗戦でもあり、風船をゲットした数を競いました。もちろん勝ったのは1-B病棟。それも大差で…。愛とスリルと笑いの多い賑やかなイベントでした。バレンタインデーが終わると、もうすぐ雛祭り。暖かい春も近づいて来ました。これからも健康で楽しく過ごしましょう。



4階合同新春の集い

4-2病棟 瀬野 由佳

1月30日(水)に4階合同で、新春の集いを実施しました。それぞれの病棟のデイルームと浴室を使って3種類のゲームコーナーを設置しました。ゲームは、2020年オリンピックマスコットの絵合わせゲーム、紐を引っ張って早さを競ううりぼうレース、ボールを転がし点数を競うゲームを楽しみました。4階の保育士4人で企画し、利用者と一緒に準備を進めました。ゲームコーナーでは、ご家族や職員と共にサイコロを転がし思った数字が出ずに残念そうにしている方、思いっきりボールを転がし高得点が出て大喜びする方、何度もゲームにチャレンジする方など、各々楽しんでいる様子でした。ご家族や他病棟の利用者など多くの方で賑わい、新春を迎えることができました。



オリンピックマスコットの
絵合わせゲーム



うりぼうレース



ボール転がしゲーム

バスハイク

1-B病棟 保育士

1-B病棟のバスハイクは、スイーツが大好きな利用者3名と職員3名で星乃珈琲に行ってきました。2月7日(木)はとてもお天気が良く暖かで、絶好のバスハイク日和になりました。行く前から、「大きいケーキを食べる！」と宣言している方もいました。着いて間もなくは混雑していましたが、メニューや美味しそうな店頭のサンプルを見ている間に、広いスペースの席が空いてラッキーでした。皆さん、看板メニューの分厚いパンケーキを選び、飲み物もクリームソーダやカフェラテなど好きな物を注文し大満足。焼きたてのパンケーキが運ばれてくると「わあ」と歓声が上がりました。ペロッと完食され、「次回はパンケーキを2枚食べたい」と話していました。やはりスイーツは別腹のようです。ゆっくりと喫茶ができて、とても楽しい日になりました。



第34回日本環境感染学会総会・学術集会

1-A病棟 今橋 恵美

平成31年2月22日(金)、23日(土)、神戸で行われた第34回日本環境感染学会総会・学術集会に参加しました。センターからは、ICTメンバー4名、リンクナース2名の他、看護師長等が参加しました。

今年のテーマは、「皆でAMR(やぐざいたいせい)時代に臨む」でした。抗菌薬が効きにくくなる耐性菌が増加しており、このままだと2050年にはガンを抜き、死亡原因第1位になると言われています。そのため耐性菌を「つくらない」・「広めない」といった感染に関わる専門家の研究や現場の取り組みを聴講してきました。

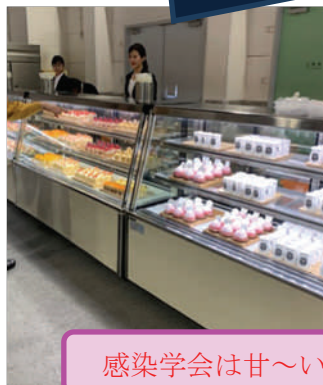
センターからも「つくらない」取り組みとして2例の演題を報告しました。古島医師による「抗菌薬の持続内服の現状と投与中止に向けての取り組み」は、実際に投与を中止した事例とその後の状態についての報告でした。また、小出医師による「連携施設への感染症コンサルト体制の構築～第2報～」は、平成29年4月より小児総合医療センター感染症科と連携し、抗菌薬の使用についてコンサルトを受け、府中療育センターにおいても耐性菌をつくらないための取り組みを進めていると報告しました。

ポスター部門では、私が「尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス」について発表しました。センターでは、尿道留置カテーテルを留置している利用者は半永久的な留置になっており、実際尿路感染がどの程度起こっているのか調査したものです。また、対象病棟において、カテーテル管理方法のアンケート調査を行い、関連性を分析・評価・考察しました。

今回この学会に参加して、感染対策について日本全体がみな同じ方向を向き、また同じような課題を抱えていることがわかりました。センターにおいても、薬剤耐性菌を「つくらない」「ひろげない」ためのヒントをたくさんもらってきましたので、今後の対策に役立てたいと思います。



学会の展示ブースでスタンプラリーをするとケーキをゲットできます！！



感染学会は甘～いものがたくさんあるよ♡

〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>